

2018 年度第 1 四半期決算説明 ネットカンファレンス質疑応答要旨

日時	2018 年 8 月 2 日 16:30~17:30
説明者	コーポレートコミュニケーション部 副部長 IR グループリーダー 吉田 修
説明資料	2018 年度第 1 四半期決算の概要 及び 2018 年度業績予想の概要

Q&A

■モビリティセグメント

Q1. モビリティセグメントの 18 年度第 1 四半期の売上高について、前年同期比で数量差が+143 億円となっているが、この内アーク社の新規連結影響はどの程度か。また営業利益の数量差が+11 億円となっているが、主にどの製品が寄与したか。各製品の動向を踏まえ説明してほしい。

A1. 売上高数量差の内、アーク社の新規連結影響は約 110 億円です。営業利益の数量差については、自動車向け、ICT 向けともに全般的に販売が堅調に推移しました。自動車用途では、海外 PP コンパウンドがタイ、インド、欧州を中心に販売が増加しており、北米においても当社の販売は堅調に推移しました。ICT 用途では、スマートフォンの販売台数は低調が続いていますが、アペルはカメラの複眼化を背景に引き続き販売が拡大しています。

Q2. モビリティセグメントの営業利益が 17 年 4Q (1-3 月) から 18 年 1Q (4-6 月) にかけて増益となっている要因は何か。また各事業で価格改定の状況に違いはあるか。

A2. 各製品の販売が堅調に推移したことが主な要因です。価格改定の状況については、各事業とも特段状況に違いはありません。

■ヘルスケアセグメント

Q3. ヘルスケアセグメントの 18 年度第 1 四半期の営業利益について、前年同期比の数量差の内訳について説明してほしい。

A3. ビジョンケアの販売増加が主な要因です。一部出荷期ずれ等による販売増も含まれますが、需要自体も堅調に推移しています。また歯科材料は、昨年ドイツでの販売が落ち込みましたが、1Q (4-6 月) は前年同期比で販売が増加しました。

Q4. 不織布の動向について説明してほしい。

A4. 原料価格の上昇が続いており、販売価格も期ずれが生じています。需要については、足元ではおむつの海外向け輸出が減少しており、これに伴い当社不織布販売も前年同期比で減少しました。但し当社が注力している高機能分野は前年同期比、前 Q 比ともに増加しており、今後も引き続き需要動向を注視するとともに販売拡大に取り組んで参ります。

Q5. ヘルスケアセグメントの営業利益の 1Q (4-6 月) から 2Q (7-9 月) にかけての動きについて説明してほしい。

A5. ビジョンケアについては 2Q は 1Q の出荷期ずれによる販売増の影響が無くなるものの、引き続き堅調に推移すると見えています。不織布は価格改定に取り組んでいきますが、原料価格も上昇が続いており、引き続き期ずれが発生すると見込まれます。また新規ライン稼働に伴う償却費負担増により、本格的な増販効果は来期以降になる見込です。歯科材料については 2Q は不需要期にあたりますが、引き続き拡販に取り組んで参ります。

■フード&パッケージングセグメント

Q6. フード&パッケージングセグメントの販売動向について説明してほしい。

A6. 農薬は 1Q (4-6 月) は不需要期ですが、2Q (7-9 月) は海外が需要期入りするため、販売は増加が見込まれます。フィルム・シートの内、包装フィルムの 1Q の販売は、4 月に実施した値上げ前の駆け込み需要の反動が一部でありましたが、需要自体は堅調であり、2Q 以降販売は戻ってくると見えています。産業フィルムは、堅調な半導体需要を

背景に販売が堅調に推移しました。コーティング・機能材については、塗料、コーティング用途を中心に、概ね想定通りの販売となりました。

Q7. 包装フィルムの価格改定の状況について説明してほしい。

A7. 4月に価格改定を実施しましたが、足元さらに原料価格が上昇していることを受け、7月下旬に追加で価格改定を打ち出しており、今後改定に取り組んで参ります。

■ 基盤素材セグメント

Q8. 基盤素材セグメントの18年度第1四半期の営業利益について、前年同期比で交易条件が±ゼロとなっている。フェノールの交易条件は改善したと思われるが、他にマイナス要因があったのか。

A8. フェノールは市況の正常化に伴い交易条件が改善しましたが、一方でポリオレフィンの販売価格の期ずれ影響等により相殺となりました。

Q9. 基盤素材セグメントの営業利益について、17年度4Q（1-3月）から18年度1Q（4-6月）、及び2Q（7-9月）にかけての動向を説明してほしい。

A9. 4Qから1Qにかけては、シンガポールのフェノールが1Qに定修を実施していること、大阪工場の各製品が6月中旬から定修入りしたことに伴い、若干の減益となりました。2Qにかけては、大阪工場の定修影響による減益を見込んでいますが、事業環境については引き続き堅調に推移するものと見込んでいます。

Q10. フェノールの需給動向について説明してほしい。

A10. ポリカーボネートの好調を背景にビスフェノールA及びフェノールの需要が堅調に推移しているほか、カプロラクタム向けの新規フェノール需要についても堅調に推移しました。これに伴い、供給面でも1Q（4-6月）の中国フェノールメーカーの稼働率はほぼフルで推移しており、新增設プラントもほぼフルと想定されます。今後、遅れているインドでのフェノール新增設プラントの稼働開始が見込まれますが、フェノール法のカプロラクタムも立ち上がる予定であり、需給は引き続きWellで推移すると見込んでいます。

■ 全社

Q11. 18年度第1四半期の年初計画に対する各セグメントごとの進捗状況について説明してほしい。

A11. 18年度営業利益は年初計画で17年度対比+120億円の数量効果を見込んでいましたが、18年1Qで+33億円と、順調に進捗しています。交易条件、固定費等はセグメントによって若干状況は異なりますが、概ね想定通りとなっています。セグメント別では、モビリティは自動車向け材料の需要が引き続き堅調であり、PPコンパウンドを始めとする各製品の販売が順調に増加しています。ヘルスケアは、ビジョンケアの販売が引き続き堅調である他、昨年落ち込んでいた歯科材料の販売も戻り基調にあります。フード&パッケージングは、営業利益の絶対額はやや低いものの、販売は概ね想定通り進捗しています。基盤素材については年初計画を上回る水準で推移しました。

Q12. フード&パッケージングセグメントの18年第1四半期の固定費は農薬の研究開発費増加等で前年同期比11億円の増加となっているが、この傾向は今後も続くのか。他セグメントの状況も合わせて説明してほしい。

A12. 農薬は新規5原体の開発が本格化しており、上市に向け研究開発費は引き続き投入していきます。また同じく成長3領域のモビリティ、ヘルスケアについても、資源投入を継続して参ります。なお、第1四半期営業利益の前年同期比の固定費差は全社で▲33億円となっていますが、この内開発コストの増加影響は約半分程度であり、残りは定修影響等が含まれています。開発コストについては年初計画で定めた金額を超えることの無いよう、予実管理を行って参ります。

Q13. 大阪工場の火災の業績に与える影響はどの程度か。

A13. まだ定修が終わっておらず、詳細は算定中ですが、一定程度の影響は出る見込みです。但し良好な市場環境が

続いており、カバー可能な範囲と見込まれるため、年初の業績見通しを据え置いています。今後、影響詳細につき把握して参ります。

Q14. 持分法投資損益が前年同期比で改善した要因は何か。

A14. ウレタン、フェノール、PTA の JV 損益がいずれも改善したことによるものです。

Q15. キャッシュ・コンバージョン・サイクルの改善に取り組んでいると理解しているが、在庫以外の売上債権、買掛債務についても改善しているか。

A15. 現在の取り組みは在庫が中心となっています。売上債権、買掛債務については取引先との関係もあるため在庫に比べるとハードルは高くなりますが、今後取り組んで参ります。

以 上